

## 伊那新校 校名選考の経過

### 1 校名選考の概要

#### (1) 校名公募

- ① 公募期間： 令和 7 年 8 月 1 日（金）～ 9 月 7 日（日）
- ② 応募内容： 校名案と理由
- ③ 応募方法： 応募フォーム、郵送または持参

#### (2) 応募状況

- ① 応募件数： 909 件

応募フォーム：791 件、郵送・持参：118 件(うちイベントによる応募 60 件)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	合計
113 件	68 件	107 件	159 件	181 件	152 件	129 件	909 件
12.4%	7.5%	11.8%	17.5%	19.9%	16.7%	14.2%	100%

- ② 校名案： 468 件

#### (3) 選考の観点

- ① 校名は「長野県（ ）高等学校」とする  
【次の②～④のうち、1 つ以上が含まれていること（すべて含めてもよい）】
- ② 学校の所在地がわかりやすく、親しみがあり生徒が誇りを持てる名称である
- ③ 伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校のこれまでの歴史や伝統などがイメージされている
- ④ 自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦するという学校像が表現されている

#### (4) 一次選考

- ① 両校の職員で構成する設立準備委員会と高校再編推進室で選考の観点に沿って、468 件から 192 件に絞る。その際に「伊那北」、「伊那弥生ヶ丘」及び伊那北高校所在地の呼名「薫ヶ丘」などの両校に関連する校名案については、新校としての未来への広がりや新たな可能性が自然に伝わる名称を選びたいと考え、選考の対象としないこととした。
- ② 更に選考するにあたり、両校職員各 6 名、県教委 6 名の計 18 名で 3 回の校名審査を行う。候補を絞るにあたり「両校の伝統の継承」、「漢字の意味」、「地域性」、「声に出したときの響き」、「品格」等を基準とした。
- ③ 校名候補に対し、商標権等の調査を行い、権利上問題がないことを確認の上、「伊那」「伊那瑛陵」「伊那学峰」「伊那学陵」「伊那双峰」「上伊那学陵」の 6 候補を二次選考の対象とした。

#### (5) 二次選考

- ① 「懇話会構成員」は 1 人 1 票の投票、「地域」「両校の在校生と教職員」には校名にふさわしい候補を 3 つまで選んでもらう投票及び意見募集を実施。
- ② 期間は、「懇話会構成員」の投票は令和 8 年 2 月 26 日（木）～ 3 月 8 日（日）、「地域」「両校の在校生と教職員」の投票及び意見募集は 2 月 26 日（木）～ 3 月 12 日（木）。
- ③ 第 22 回懇話会において、投票及び意見募集の結果を踏まえた意見交換を行う。

### 2 校名選考の検討経過

- (1) 第 12 回懇話会（令和 4 年 7 月 6 日）
  - 校名検討について意見交換
- (2) 第 13 回懇話会（令和 4 年 10 月 7 日）
  - 教育内容や学びのイメージを共有することを重要視し、校名の公募については時期を改めて実施することとする
- (3) 第 19 回懇話会（令和 7 年 2 月 3 日）
  - 校名選考のスケジュールについて意見交換
- (4) 第 20 回懇話会（令和 7 年 5 月 13 日）
  - 校名選考の観点、選考方法、公募について意見交換
- (5) 第 21 回懇話会（令和 7 年 7 月 17 日）※オンライン会議
  - 校名募集要項について意見交換
- (6) 第 22 回懇話会（令和 8 年 3 月 18 日）
  - ① 校名募集結果の報告
  - ② 一次選考の経過報告
  - ③ 二次選考での投票結果の報告
  - ④ 校名選考について意見交換

伊那新校 一次選考後校名候補 懇話会構成員による投票結果（五十音順）

	校名候補（読み）	校名候補に込められた思い	投票数	その校名とした理由
A	伊那 (いな)	両校が歩んできた百余年の歴史を「伊那」という言葉に集約し、等しく継承する。上伊那地域の教育・文化の中心地としての責任を担い、地域に根ざした教育を推進。シンプルで力強い校名を掲げることで、全国・世界へ羽ばたく生徒たちのアイデンティティの拠り所とする。	22	（投票理由の要約/別紙参照） <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンプルを重視（Simple is Best・可読性・利便性）</li> <li>・公平な伝統継承（両校共通の地名・納得感・一体感）</li> <li>・地域を代表する高校の校名（骨太な安定感・誇り）</li> <li>・時代への柔軟性（イメージ固定回避・普遍性・余白）</li> <li>・脱流行（非作為的・脱造語・親しみやすさ）</li> </ul> <b>▶装飾を削ぎ落としたシンプルさが、両校の歴史を包摂し、上伊那地域の代表校としての重みと柔軟な将来性を担保する</b>
B	伊那瑛陵 (いなえいりょう)	「瑛」は澄みきった光、「陵」は丘を意味する。伝統ある両校の精神を継承しつつ、生徒たちが澄み切った知性を磨き、アルプスの山脈のように気高く、自らの限界を超えて（陵いで）未来を切り拓いていくことへの願いを込めている。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「瑛」と「陵」どちらにも深く意味が込められていて魅力を感じました。伊那新校では、今まで伊那になかった新たな学習環境や学習方法で、生徒一人ひとりの個性をひからせ、上へ上へとめざして行けるような高校にしてほしいと願っています。</li> </ul>
C	伊那学峰 (いながくほう)	2つのアルプ스에抱かれた「伊那」の地を舞台に、伝統を礎として新時代を切り拓く意志を「学峰」の名に込めた。地域に根ざしながらも、その学びが嶺を越え、未知の未来へ高く飛翔する象徴となることを目指す。この地から世界へ、輝く未来を創造する力を育む決意の表明。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来へ向けてのメッセージが込められていて、この中ならこれがいいと率直に思ったから。「輝く未来を創造していく。」今、統合と同じ時期に入学し、高校生活を送っていく高校生が今まで通りの高校生活は送れなくても、今まで通り笑顔が絶えないようになっていって欲しい。正直、他校に似ている音になってしまうのは少し、嫌だなと感じる。</li> </ul>
D	伊那学陵 (いながくりょう)	両校が築いた「知の伝統」を継承・結集し、上伊那地域の教育の総本山として新たな歴史を刻む決意を込めた。「伊那」を冠することで、地域への深い愛着と、アルプスの山々に抱かれた学び舎（陵）から次代を担う志高い人材を輩出するという不変の使命を象徴した。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い学びを得る場所を学陵という言葉でわかりやすく表している親しみやすい名前であり、他校との響きも似ていないから。高い学びを得て羽ばたくため力を蓄える地となってほしい。</li> <li>・伊那北、伊那弥生ヶ丘（旧伊那南・伊那東）がいずれも丘にある（あつた）ことから、両校の伝統を継承するとともに、伊那北の前身である旧制伊那中学校と重ならないよう考慮した上で、伊那の地名に新たな学びの拠点として、より相応しい語を関して期待を込めた。</li> <li>・それぞれ素晴らしい校名で迷いますが、校地のある高台を「学びの丘」と捉え、地域の「学びの拠点」としての新しい高校をイメージしていきたいと考えました。県陵、清陵、学陵の3陵校の連携事業（3陵戦など）を考えても面白いと思います。伊那の次にくる言葉「学陵」があることで、「学びの丘」「学びの拠点」としての新しい高校のイメージが徐々に浸透していけば素晴らしいと感じています。また、全国どの地域でも、その地域それぞれ思い入れのある「山」や「峰」がありますので「峰」が入った校名は避けさせていただきます。</li> </ul>
E	伊那双峰 (いなそうほう)	両校が築いた輝かしい伝統と郷土への誇りを継承し、更なる高みを目指す決意を込めた。東西のアルプスを仰ぐ「伊那」の地で、2つの歴史が「双峰」として結実し、互いに切磋琢磨しながら未来を拓く人材を育みたい。地域に愛され続ける学び舎の新たな象徴として命名。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者の方の候補校名に込めた思いは、校名を読んだときにそのままイメージすることができました。また上伊那をはじめ、この地域をつくってこられた先人たちへのリスペクトも感じられ、新校名としてふさわしく感じました。</li> <li>・歴史ある2校の統合であるから。</li> </ul>
F	上伊那学陵 (かみいながりょう)	両校の伝統を継承し、上伊那全域の教育の象徴となるべく「上伊那」を冠した。2つのアルプスを望むこの地を、郷土の誇りと知が集まる「学陵（まなびの丘）」と定義。地域全体で若者を育み、上伊那から世界へ羽ばたく高い志と、未来を切り拓く力を養成する決意を込めた。	0	

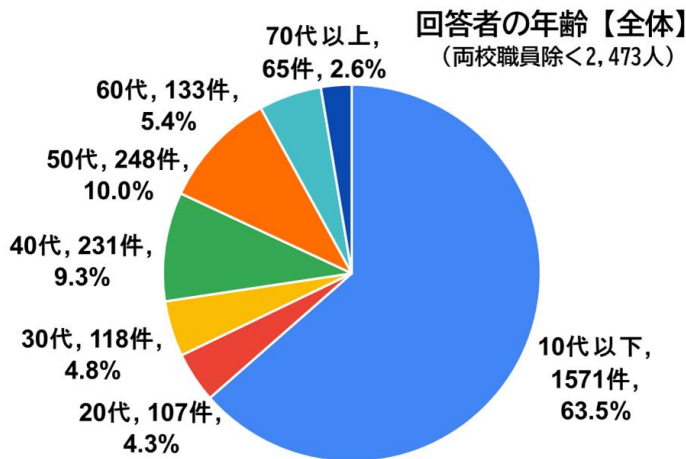
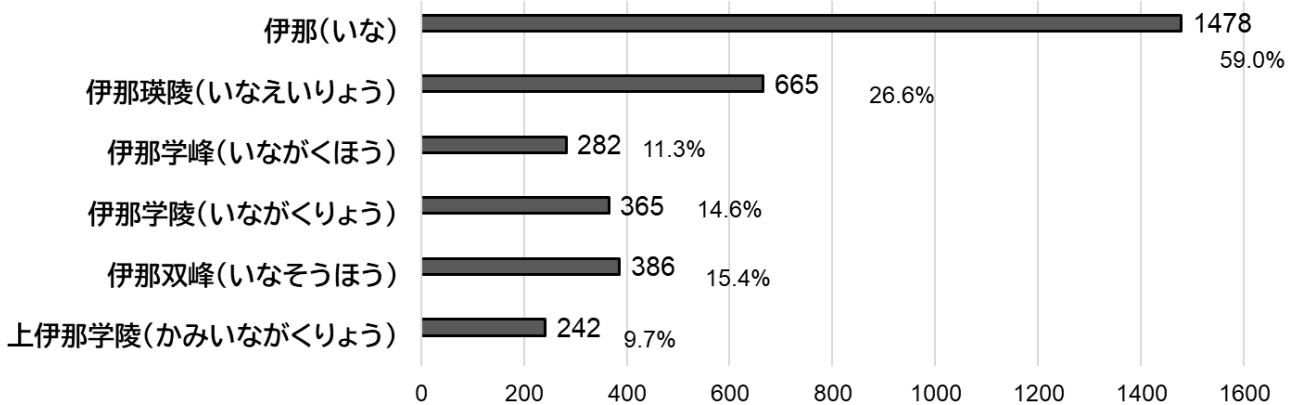
## 【別紙】

A 伊那（いな） その校名とした理由（22 票）	
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 両校に共通する</li><li>■ simple is best</li><li>■ 1 番無難な校名と思われるため。</li><li>■ シンプル 生徒が書きやすい</li><li>■ シンプルで分かりやすい</li><li>■ 両校もイメージできるシンプルで力強い名前</li><li>■ シンプルかつ端的に新校を表している校名であるため。</li><li>■ 最もシンプルで、伊那北、伊那弥生が丘双方の同窓生からしてもすんなり受け入れられそうだから。</li><li>■ 伊那にできる高校なので、シンプルかつ覚えてもらいやすい校名として最もふさわしいと思います。</li><li>■ シンプルな名称で、この地を出発点として羽ばたく学生たちの拠り所となる学校名になるとの願いから選びました。</li><li>■ 流行（私学などによくある名前）に流されずシンプルだが伊那の中心校としてふさわしい校名であると考えられます。</li><li>■ 両校が歩んできた歴史、地域に根ざした教育は、伊那市、伊那とともにあります。シンプルでわかりやすい校名でもあり、小・中・高の連携も期待できる。</li><li>■ 変に飾りのある校名よりも、シンプルで、上伊那における代表的な高校として「伊那高校」がいいのではないかと思われる。その他の校名は、思いは理解できるが、なんとなく取ってつけた感じがしてしまう。（個人的感想ですが…）</li><li>■ これからの学校は、社会状況の大きな変化の中で『時代』に対応した教育が求められると思います。校名はシンプルな『伊那』とし、特定のイメージを想起させるような漢字二文字は付けない方が柔軟に教育内容を検討できると考えます。</li><li>■ 両校の伝統を大切にするという観点から、地名だけを校名にした「長野県伊那高等学校」がふさわしいと考えます。最近は何文字の校名が多いようですが、あえてシンプルで覚えやすい名前にする事で、地域の代表校としての自覚を示し、長く親しまれる学校になることを期待します。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ ・今呼ばれている「伊那新校」に 1 番近いし、1 番シンプルで覚えてもらいやすいのではないかと思ったから。また、他の候補は漢字から意味が想像しにくいのではないかとも思った。・「伊那」という地域の名前を大切にすることで、地域と共に歩み、地域に親しまれる学校になってほしい また、伊那の名を背負って未来へ進んでいく学校になつたらいいなという思いを込める（・他の校名はスマホなどで漢字に変換するときや、書くときに漢字の画数が多くて大変なのではないかと感じた。）</li><li>■ 伊那の名を残したい。他の文字を校名に入れなくてよいと考えた。</li><li>■ 地域に根差した学校、これまで伊那地域で紡いできた両校の歴史のもと、地域とともに、地域を代表する人材を育成して欲しい。</li><li>■ 消去法で「伊那」にしました。・「学峰」も「学陵」も字面がびんと来ない。・「双峰」は音感がびんと来ない。・「上伊那」ではどこにあるのか分かりづらい。地域が散漫すぎる。★「瑛陵」と迷いましたが、30 代の伊那北高校卒業生の意見も参考にし、「伊那」にしました。</li><li>■ 【理由】地域名をそのまま用いた校名は、県内外の人にも認知されやすく、地域の高校としての誇りや一体感を生みやすいと考えます。 【込める願い】地域の名を冠する学校として、伊那の誇りとなり、未来を担う若者が大きく羽ばたく高校になってほしいという願いを込めました。</li><li>■ それぞれ百年を超える伝統を持つ現在の両校に共通した地名「伊那」を掲げ、それ以外の文言は不要。余計な言葉を付け加えると、格式が損なわれる。新しい高校に人々が期待するものは一つの単語で代表できるものではないし、また長い年月にわたって不変のものとも言えない。新校が地域を代表する存在となることを願って、骨太で明快な名前を付けたい。</li><li>■ 地域名を冠することで、地域を代表する高校、地域を担う高校という印象を与えます。地域名をみの校名とすることで、懐の深い、安定感、重みのある校名となります。その反面、地域名以外の語（陵、峰、学など）を入れると、校名に何らかの思いを込めたという意図が透けて見え、軽く感じられるため、避けた方がよいと思います。新校のイメージは、在校生及び卒業生が今後長い年月をかけて作り上げるものなので、校名に最初から何らかの思いを込める必要はないと思います。また、新校立ち上げ時の高揚感の中で、色々な言葉を思いとして入れてしまうと、将来、校名が時代や校風に合わなくなる可能性もあると考えられます。以上のことから、新校の校名を「伊那高等学校」で投票いたします。</li></ul>

## 【伊那新校 校名選考】 二次選考での投票及び意見募集の結果

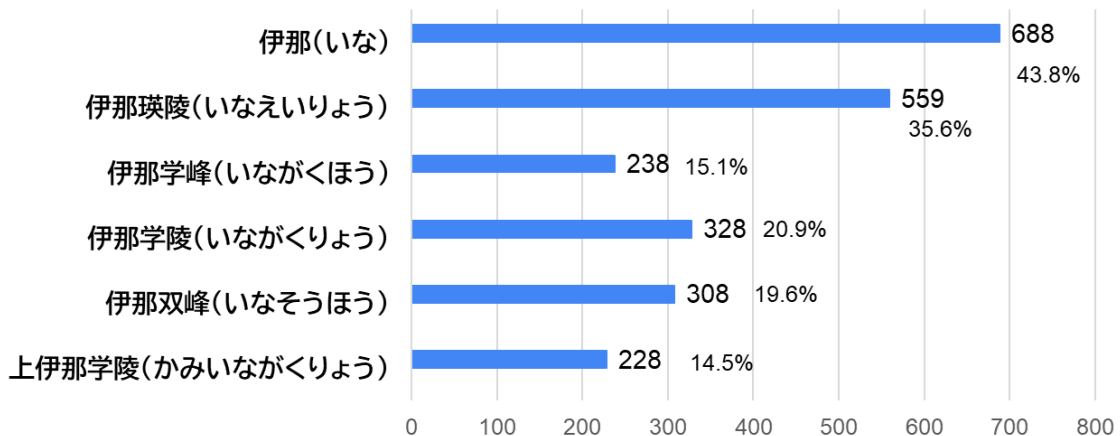
- 期間:令和8年(2026年)2月26日(木)~3月12日(木)
- 回答方法:応募フォーム 2,500 件、郵送4件 合計 2,504 件
- 全体集計 ※懇話会構成員は別紙参照

【全体】2,504件(懇話会構成員除く) 最大3つまで



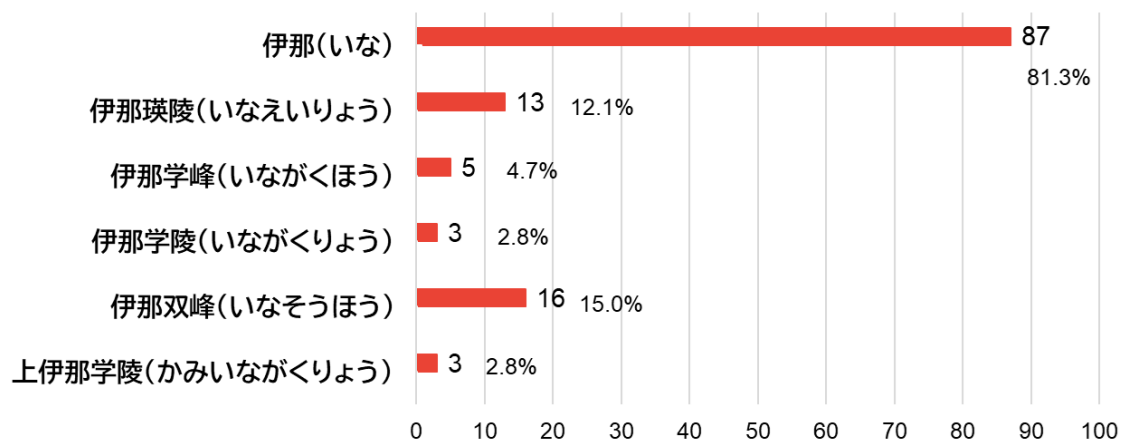
- 年齢別集計(2,473 件の内訳) ※両校職員 31 人は年齢を集計していないので除く
- ◇10代以下(上伊那地域中学生、両校在校生など)

【10代以下】1,571件 最大3つまで



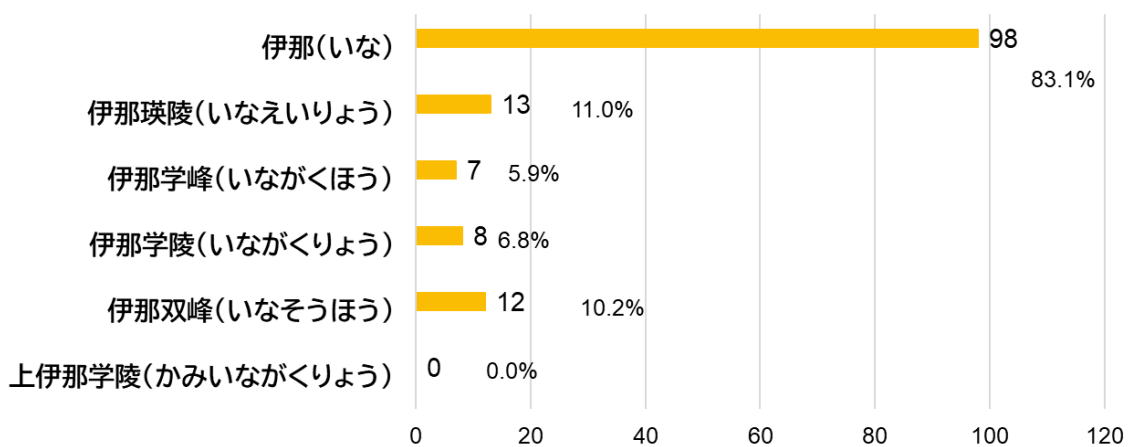
◇20代

【20代】107件 最大3つまで



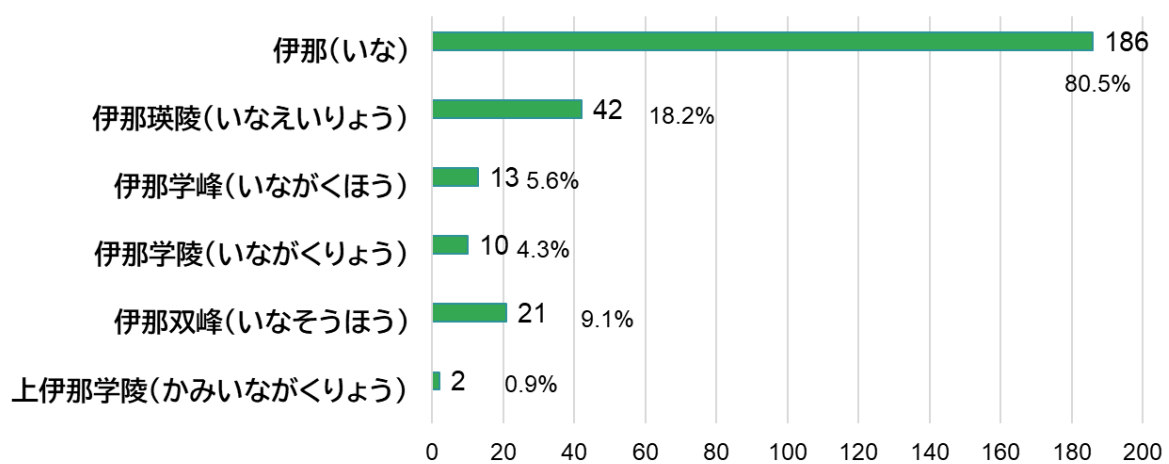
◇30代

【30代】118件 最大3つまで

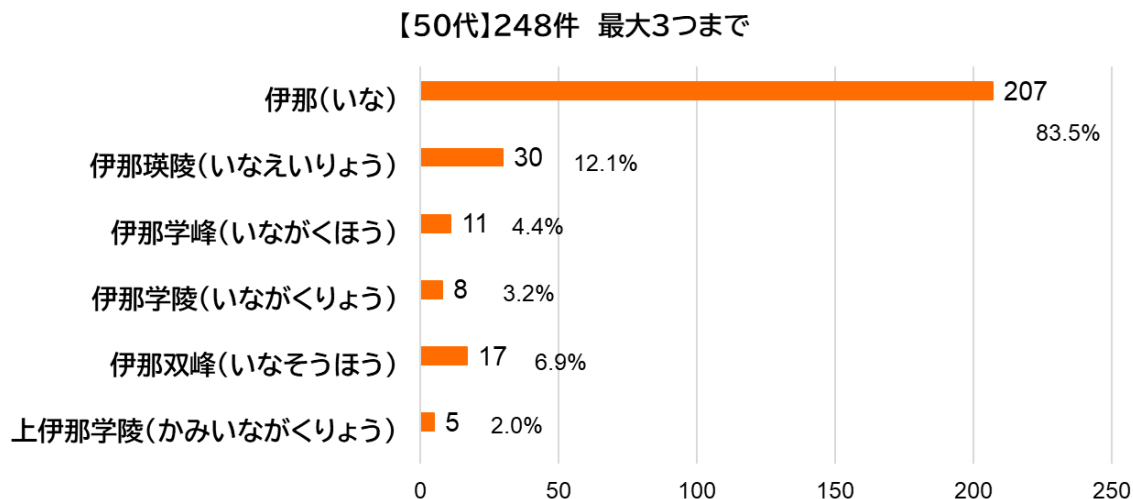


◇40代

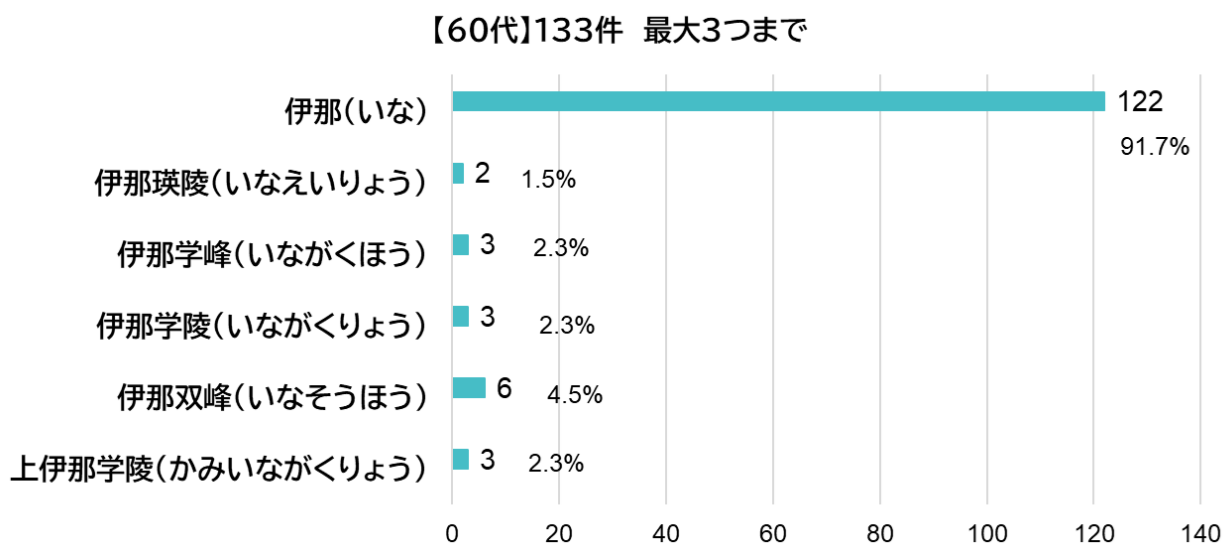
【40代】231件 最大3つまで



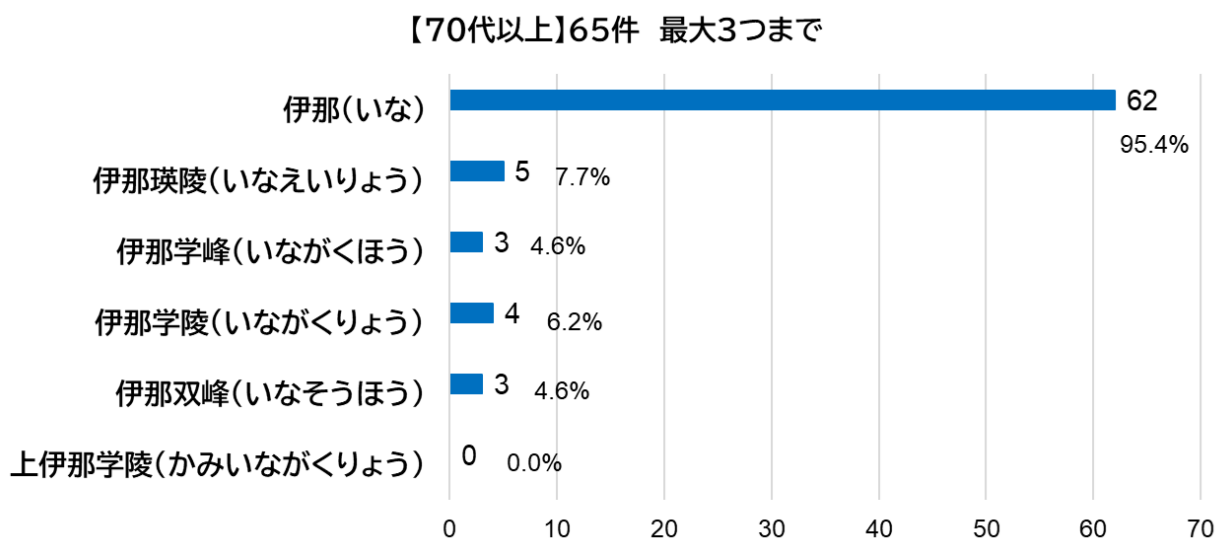
◇50代



◇60代



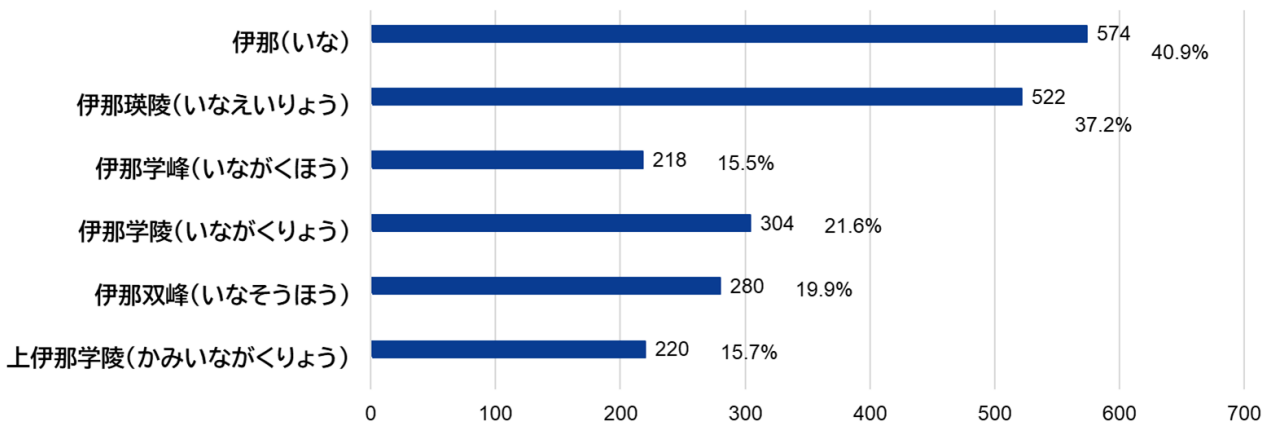
◇70代以上



●職業等別集計

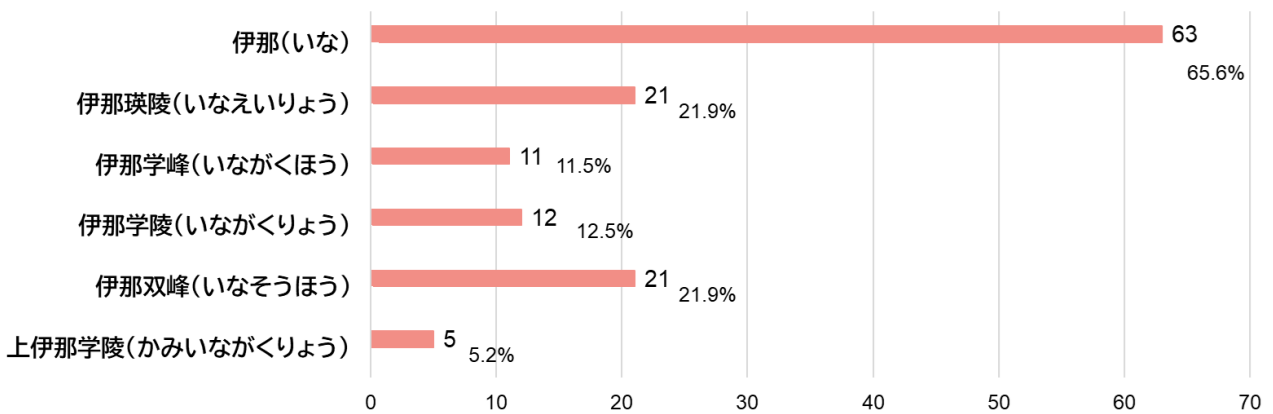
□中学生(上伊那地域中学1・2年生、在籍 3,087 人)

【中学生】1,405件(上伊那地域中学1・2年生)回答率45.5% 最大3つまで



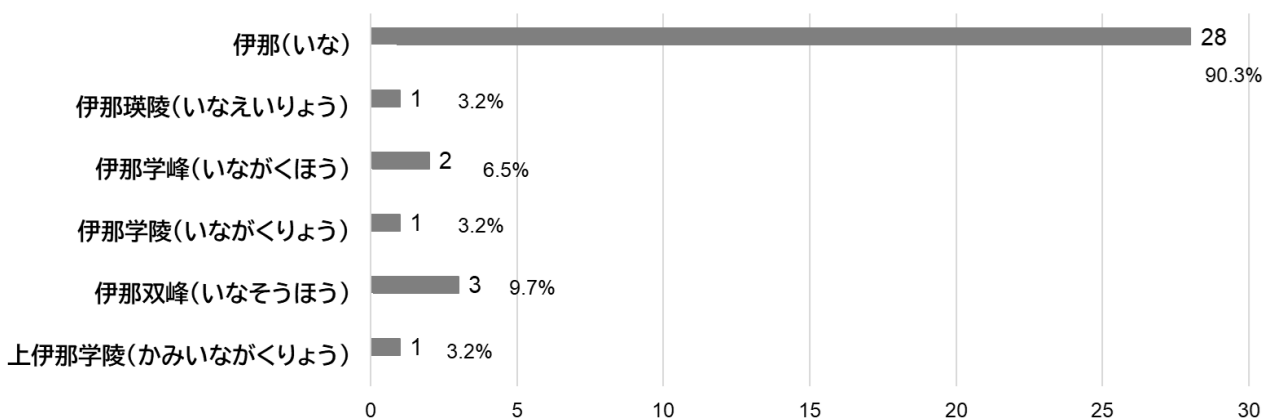
□在校生(両校在校生1・2年生、在籍 866 人)

【在校生】96件(両校1・2年生)回答率11.1% 最大3つまで



□職員(両校職員 132 人)

【職員】31件(両校)回答率23.5% 最大3つまで



## ●校名候補に寄せられた意見(要約)

伊那(いな)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・両校に共通する「伊那」を用いることで双方の卒業生や在校生が誇りをもって受け入れられる。</li><li>・旧制の伊那中学校や伊那高等女学校という両校の歴史的ルーツに基づき、昔からの馴染みが深い。</li><li>・シンプルな校名がかっこいい。短い校名は覚えやすく書きやすい。校名で学校の性格を定義しすぎず、生徒たちが自由な発想で新しい歴史や校風を積み上げていってほしい。</li></ul>	
伊那瑛陵(いなえいりょう)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・漢字の並びがきれい、美しく賢そう。かっこいい。</li><li>・県内の他校と音が被らない「瑛陵」を組み合わせることで、地域らしさと新設校としての独自性を両立させている。</li><li>・アルプスを象徴する意味合いや「未来を切り開く」「希望に満ち溢れた」といった名前に込められた由来に共感できる。</li></ul>	
伊那学峰(いながくほう)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・「教育の頂点を目指す」といった、高い意識を表現している。「学」の字が入ることで、学ぶ意欲や知的な印象を直感的に与えられる。</li><li>・伊那谷を象徴する2つのアルプスや三峰川を連想させる「峰」という漢字が、地域の景観に合致している。</li><li>・「未知への旅に飛び立つ」「高く飛翔する」といった、新校としてのチャレンジ精神や、生徒たちが未来へ羽ばたくイメージが込められている。</li></ul>	
伊那学陵(いながくりょう)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・「知の拠点」を感じさせる高い専門性と品格があり、両校が築いた「知の伝統」を継承し、結集させる印象がある。</li><li>・「アルプスの山々に抱かれた」「高台にある学び舎」といった所在地の風景に、言葉の響きが非常に合っている。</li><li>・「伊那学(いながく)」などと略した際の語呂が良く、リズムや響きが「かっこいい」と感じる。</li></ul>	
伊那双峰(いなそうほう)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・伝統ある2校が合流した歴史を「双」という一文字に込めることで、双方の伝統や誇りを対等に継承・内包していると感じる。</li><li>・中央アルプスと南アルプスの2つの峰に囲まれた伊那谷特有の地形を「双峰」と表現することに親近感が持てる。</li><li>・2つの高峰が並び立つイメージから、生徒たちが互いに高め合い、さらなる高み(峰)を目指して進学・成長していくという教育的な願いが込められている。</li></ul>	
上伊那学陵(かみいながくりょう)	
<ul style="list-style-type: none"><li>・伊那市にとどまらず「上伊那全域」の教育の象徴であるという広域的な視点がある。</li><li>・「学」の文字が入ることで、知的な印象を直感的に与える。</li><li>・「上伊那から世界へ」というグローバルな志や、未来を切り拓く力を養成するという校名に込められたメッセージに共感できる。</li></ul>	